

＜スタッフ紹介＞

役 職	スタッフ名
診療支援局次長兼薬剤部門長 兼薬剤管理副センター長	深津 祥央
参 事	出山 恭隆
主 幹	中川 直樹
主 査	高橋 和代
主 査	泉原 里絵
主 査	安井 結香里
主 査	若林 里絵
主 査	西井 拓人
主 査	北庄司 敦久
主査兼危機管理室主査	中川 貴弘
他 スタッフ	薬剤師 18 名 薬剤助手 5 名

＜特色と概要＞

薬剤部門では、調剤、医薬品の供給管理、注射薬の無菌混合調製、服薬指導、病棟薬剤業務、周術期の薬剤管理、医薬品情報管理、治験薬管理、地域連携など、患者に有効かつ安全な薬物療法を提供するために様々な業務を行っている。

調剤室では、処方オーダー情報と連動したバーコード照合システムや各種調剤機器を導入して調剤ミスの防止・調剤薬の品質保証に努めるとともに、処方監査・疑義照会を徹底して医薬品の適正使用を推進している。

病棟薬剤師業務では、すべての入院患者について持参薬確認を行い、医師・看護師等と協働して入院中の薬物治療の有効性・安全性をモニタリングしている。患者への服薬指導を行って服薬アドヒアランスの向上に努め、退院時服薬指導により患者の服薬情報を施設間で切れ目なく繋いでいる。

外来患者の薬物治療における保険薬局との情報連携にも力を入れており、薬局薬剤師が患者から聞き取った服薬状況や副作用発現状況、服薬に関する問題点や不安などを服薬情報提供書（トレーシングレポート）で処方医師にフィードバックする体制を整えている。副作用の早期発見・早期対応に繋がる情報提供もあり、外来薬物治療の安全管理に貢献している。

当院で組織されている各専門医療チーム（感染対策チーム（ICT）、抗菌薬適正使用支援チーム（AST）、栄養サポートチーム（NST）、褥瘡対策チーム、緩和ケアチーム（PST）、認知症ケアチーム）の構成員として積極的に参加し、医師、看護師等と共に多職種で病棟ラウンドを実施している。また、糖尿病教室や生活習慣病予防教室にも参加し、薬剤師が薬に関する患者向けの講習会を担当している。

＜実績＞

病院運営の一環として、全面院外処方箋発行を行い、病棟薬剤師業務の充実に取り組んでいる。2025年度の院外発行率は93.2%（時間内処方の集計では98.2%）である。

一般病棟、ICU、EICUに専任薬剤師を配置して病棟薬剤業務実施加算の体制を敷いている。薬剤管理指導業務における服薬指導実施患者数及び指導件数は、月平均患者数827名、指導件数1,017件（退院指導338件）で推移している（グラフ1）。

すべての入院患者の持参薬鑑別ならびに投与計画の提案を調剤室と病棟薬剤師が連携して行っている。2025年度における実績は月平均747人、4,802剤となっている（グラフ2）。また、患者サポートセンターと連携して、外来患者を対象に手術前に休薬を考慮すべき薬剤のチェックを行っている。2025年度実績は、月平均150件となっている（グラフ3）。

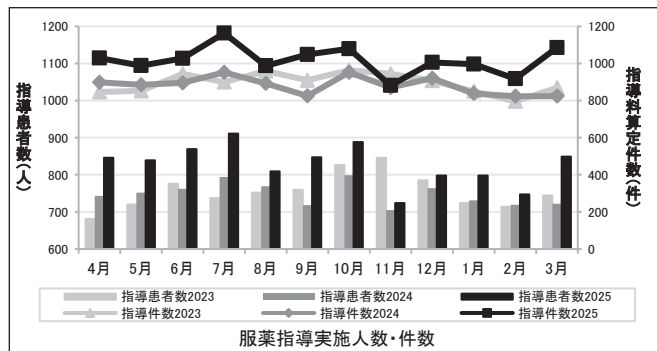
無菌製剤処理料の対象となるTPN製剤および免疫不全患者に用いる点滴の調製を行うとともに、算定対象外ではあるが一般の点滴を含めた注射薬の無菌混合調製を行っている。2025年度における混合調製の実績として、調製本数は月平均731本となっている。

次に、抗がん薬に関しては、外来・入院の全患者について、抗がん薬レジメンの一元管理と無菌調製を実施している。2025年度における実績は外来・入院合わせて月平均患者数536名、調製本数は749本となっている（グラフ4）。

また、外来化学療法センターにがん薬物療法の認定薬剤師を配置し、がん患者への服薬指導を行い、多職種と協働して外来腫瘍化学療法診療料や連携充実加算に関する業務を行っている。

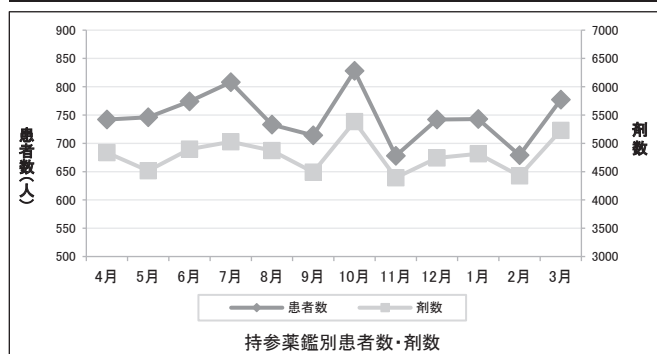
(グラフ1)服薬指導実施人数・件数(2023年度～2025年度)

	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
指導 患者数 (人)	2025	846	839	869	911	809	847	888	724	798	798	747	849
	2024	743	752	762	794	769	718	799	705	764	731	719	722
	2023	681	720	776	737	752	759	826	846	785	724	714	744
指導 件数 (件)	2025	1,029	988	1,027	1,163	987	1,048	1,079	881	1,005	996	917	1,085
	2024	898	885	895	952	892	825	952	870	920	838	823	824
	2023	846	852	944	899	959	909	964	944	907	850	796	869

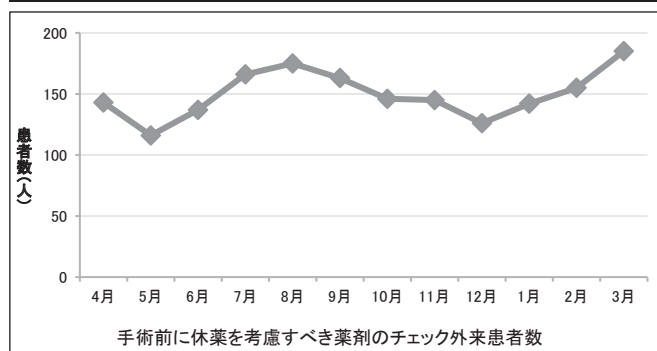


(グラフ2)2025年度 持参薬鑑別患者数・剤数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
患者数	742	746	774	808	733	714	828	678	742	743	679	777
剤数	4,835	4,515	4,897	5,027	4,872	4,491	5,385	4,392	4,741	4,816	4,425	5,229

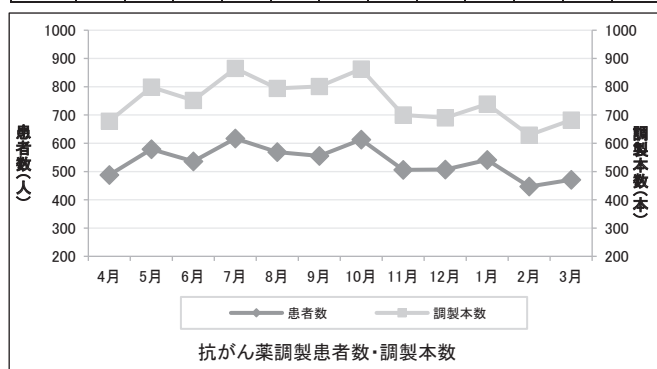
(グラフ3)2025年度 手術前に休薬を考慮すべき
薬剤のチェック件数(外来患者)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
患者数 (人)	143	116	137	166	175	163	146	145	126	142	155	185



(グラフ4)2025年度 抗がん薬調製患者数・調製本数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
患者数	488	579	536	617	569	555	613	506	507	541	447	471
調製本数	678	799	752	865	794	801	863	700	690	739	629	682



＜今年度の成果と来年度への抱負＞

2025年度は、病棟で薬剤管理指導を実施した患者数・指導件数が2023年度・2024年度と比べて大きく増加した。これは、薬剤部門スタッフの努力はもとより、薬剤助手業務の導入・拡大に加え、薬剤師定員の充足と新人教育の効果により、病棟業務の時間確保と業務内容の充実が進んだためである。

2026年度は、診療報酬改定で従来より上位の区分となる病棟薬剤業務実施加算1が新設される。退院指導の実施割合やポリファーマシー対策ならびに服薬情報の施設間連携の実施件数が要件化され、さらなる病棟業務の充実が求められている。医療・社会のニーズに応えるためにも、薬剤部門全体でこれらの業務に取り組んでいく。

調剤をはじめとする中央業務、病棟薬剤師業務、各専門医療チームへの参画、病院全体の医薬品管理体制の充実を図り、当院における安全で質の高い薬物療法を推進し、ひいては泉州地域の医療に貢献する。



医薬品投与について医師と協議する病棟薬剤師



調剤室